

イベントの内容

【プログラム No.1】

国際シンポジウム 高齢者の家族介護の現状とその支援について ～ヤングケアラーやダブルケアなどの課題を考える

☎手話通訳

2016年、日本の総人口は1億2,684万人であり、減少期を迎えています。2029年には総人口が1億2,000万人を下回り、その後も減少を続け、2053年には9,924万人となり、2065年には8,808万人になると推計されています。

他方、総人口は減少する中で高齢者人口は増加し、2016年、65歳以上の高齢者人口は3,459万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も27.3%となりました。2036年には高齢化率は33.3%となり、2065年には38.4%に達して、国民の約2.8人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されています。

このように高齢化が進展する中、介護を必要とする高齢者も増え続けており、地域包括ケアシステムの構築を通じて、できる限り住み慣れた地域や在宅での介護や予防を重視する取り組みがすすめられています。

しかしその一方で、施設でも在宅でも適切な介護サービスが受けられない高齢者や老老介護、育児・子育てと介護の両方を担うダブルケア、介護離職、また家族介護の担い手となっているヤングケアラーの問題なども指摘されてきています。

そこで本シンポジウムでは、要介護高齢者などの家族介護と介護者支援の取り組みについて、先駆的な実践を展開しているイギリスから講師を招き、その現状と展望、また日本の現状についての議論を踏まえ、今後のあるべき取り組みを考察します。

【日英同時通訳付】

開催日時：平成29年9月28日（木）13:00～16:00

会場：東京ビッグサイト会議棟6F

参加対象者：介護に関する課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

講師【シンポジスト】：

①イギリス／マデレーン・スター氏 ケアラーズUK 事業開発・イノベーション担当ディレクター

②日本／堀越 栄子氏 日本女子大学家政学部教授、一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事

チューター：塚田 典子氏
日本大学商学部教授、
一般財団法人保健福祉広報協会理事

参加費：1,000円

定員：280名

会議棟で開催するH.C.R.セミナー

1. 会議棟6Fにて、共通資料(1部500円)を使用して行うセミナー

9月27日(水)

10:30～12:00

【プログラム No.2】

一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術 ～ボディメカニクスの理解と活用～ ☎手話通訳

介護する方々にとって、腰痛は大きな問題です。

リフトなどの機器の活用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方（技術）の習得など、腰痛にならないための対応策はいくつかあります。家庭で介護をおこなう一般の方々は、これらについての基礎を理解し、それぞれの要素をうまく組み合わせることで腰痛を予防していく必要があります。

とくに、ボディメカニクスは、介護時の適正な姿勢や動作を確保して、介護する方とされる方の双方にとって介護を楽にし、安定させる技術です。

本講座では、具体的な実演もまじえながら、こうした技術をわかりやすく解説します。

主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパー

講師：青柳 佳子氏
浦和大学短期大学部 介護福祉科 特任教授

定員：140名

13:30～16:00

【プログラム No.3】

福祉施設の実践事例発表 ～役立つ、活かせる工夫とアイデア

全国の福祉施設では、利用者への支援のため日々創意・工夫を図り、サービスの質の一層の向上に努めるとともに、法人・施設として地域福祉の推進のために公益的活動を進めるなど、多くの取り組みが実践されています。本講座では、こうした高齢者・障害（児）者施設などにおける先駆的な取り組みと、多くの福祉施設で活かせる工夫やアイデアを共有します。

今回は、利用者の介護やセラピーのためのロボットの導入効果検証、また、職員間の連携を高めるためICT（Information and Communication Technology / 情報通信技術）を活用した支援実践工夫などを含む10施設・事業所から発表いただきます。

《A会場／高齢者福祉施設・事業所における工夫事例》

発表事例

- 四條畷荘いっぶくステーション『よろか』～商店街の空き店舗を活用した地域福祉の拠点作り～
- 認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して～所沢市三ヶ島地区認知症SOSネットワーク模擬訓練報告～
- 全ての職員が働きやすい職場 働き続けられる職場を目指して
- All For One みんながひとりのために～多職種連携による外出支援計画に基づく支援～
- ICT（Information and Communication Technology）を活用した業務改善とその効果

《B会場／障害者福祉施設・事業所における工夫事例》

発表事例

- 特別支援学校通学児のための支援「モーニングサポート」について～法人資源を有効活用した地域貢献事業～
- 特別支援学校の業務経験から活かす就労継続支援A型事業所の取り組み～就労・宿泊体験を通し、利用者（児）の自立支援について考える～
- メンタルコミットロボット【PARO】の更なる可能性について～障害者支援施設での活用方法と利用者の変化～
- 障害者支援施設における介護ロボットスーツの活用実践
- 障害者施設における災害対応事例と防災体制の強化～台風災害による長期断水への対応例を中心に～

主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など

講師：【A会場】湯川 智美氏
社会福祉法人六親会 常務理事

【B会場】久木元 司氏
社会福祉法人常盤会 理事長

定員：280名（A会場・B会場140名ずつ）

9月28日(木)

10:30～12:00

【プログラム No.4】

福祉施設における感染症の知識と対応 ～知っておきたい感染症対策のポイント～

近年、さまざまな感染症対策が注目されています。

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。施設を利用

する高齢者や障害者、児童などの場合、感染をすれば、症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設の職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められています。

本講座では、高齢者、障害者、児童福祉施設における日常生活に必要な感染症に関する基本的知識、予防と発症後の対応策、施設などの現場で留意しておきたいポイントや今年の感染症の動向について専門の講師から学びます。福祉・介護職には必見の講座です。

主な参加対象者：福祉施設職員・関係者など

講師：石原 美和氏 宮城大学 看護学群 教授

定員：280名

9月29日(金)

11:00～12:30

【プログラム No.5】

高齢者・障害者に役立つ生活支援用品の紹介とその開発視点

国際福祉機器展H.C.R.では、2009年から主催者特別企画として「高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー」を設け、公益財団法人共用品推進機構の企画・監修協力のもと、高齢者や障害者およびその家族等の生活に役立つさまざまな工夫が施された生活支援用品を展示し、広めてきました。

初年度は展示コーナーを台所、水回り、トイレ、食堂、衣服などの分野に分けて高齢者、障害者用製品の展示を実施、また近年では、2012年に「片手で使えるモノ展」、2013年に「目からウロコ展」、2014年に「旅を楽しむ10のコツと便利なグッズ展」を、2015年には「いつまでも元気で働くコツ!」をテーマに就労・労働の実施・継続に活用できる用品を、そして2016年には「マイサイズ! あなたに合わせた(る)モノ展」として、衣食住の分類ごとにさまざまな福祉機器を展示し、役立つ工夫を紹介してきました。

今年は、こうした過年度の展示内容の蓄積をもとに、これまでに展示した優れた視点で開発された用品をセミナー形式で総括し紹介するとともに、今後求められる用品開発の視点などについても解説します。

主な参加対象者：（出展社を中心とする）企業、行政、福祉関連団体

講師：星川 安之氏
公益財団法人共用品推進機構 専務理事

定員：280名

14:00～15:30

【プログラム No.6】

介護ロボットの活用で未来を拓く ☎手話通訳

介護ロボットの開発・普及については、政府が掲げる日本再興戦略に基づき「介護分野におけるロボット新戦略」が取りまとめられ、高齢者や障害者の自立支援、介護負担の軽減などにロボット技術を活用しようとする取り組みが、鋭意進められているところであります。

一方、近未来の介護の場面で重要な役割を担うことが予想される介護ロボットですが、その普及によって介護はどのように変化していくのか、また、円滑な定着やより効果的な活用のためにはどのような取り組みが必要なのかなどについては、介護ロボットが注目されはじめてからまだ間もないこともあり、理解が十分に進んでいるとはいえない側面もあります。

本講座では、さまざまな場面で活躍しはじめた介護ロボットの今後の可能性を探るとともに、克服すべき課題やめざすべき将来像について展望します。

主な参加対象者：高齢者およびその家族など

講師：五島 清国氏
公益財団法人テクノエイド協会 企画部長

定員：280名

2. 会議棟1Fにて、先着順・自由参加(事前申込不要)で行うセミナー

【プログラム No.7】

はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー 手話通訳

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編10テーマのセミナーを、以下の時間帯で開催します。

〈9月27日(水)・住宅改修編〉

①トイレ・排泄用品 ②住宅改修 ③入浴機器

〈9月28日(木)・基本動作編〉

①ベッド ②リフト等移乗用品
③杖・歩行器等補助用品 ④車いす

〈9月29日(金)・自立支援編〉

①福祉に役立つ一般製品 ②福祉車両 ③自助具

主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など
定員：自由参加、先着順にご案内いたします。

東展示ホールで開催するH.C.R.セミナー

3. 東展示ホールにて、先着順・自由参加(事前申込不要)で行うセミナー

特設会場C(東6ホール内)

13:00~14:00

【プログラム No.8】

高齢者むけの手軽な日々の料理 手話通訳 ～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ～

高齢者の一人暮らしや、高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも、大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などで済ませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの総菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、毎日の食事を、簡単に、豊かに、かつ、栄養のバランスのとれる食事の作り方を、実演をまじえてご紹介します。

テキストでは、レシピと食事づくりのポイントをわかりやすく説明しています。

「特設会場C」の特設ステージにて、毎日13:00~14:00の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催します。

主な参加対象者：高齢者及びその家族、ホームヘルパー、在宅サービス事業者など

講師：虎の門病院 栄養部

定員：90名(自由参加、先着順にご案内します。)

～H.C.R.特別企画～ (講座・特設展示・相談・ デモンストレーション、いずれも自由参加)

特設会場B(東6ホール入口・会議室)

【プログラム No.9】

アルテック講座2017 ～身の回りにおけるテクノロジー(アルテック)で創る豊かで楽しい生活 手話通訳

多くの人の身の回りにおけるテクノロジー(アルテック)を用いる事で、障害のある人の生活が大きく変わります。たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読む事ができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマートフォンでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持たないなどの理由でメモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すれば

記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。

このセミナーでは誰もが日常活用しているスマートフォン、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT(情報通信技術)製品を、障害のある人の生活や学習・就労支援に活かすアイデアとともに紹介します。

【講座テーマ】

〈9月27日(水)〉

- ①アルテックを読み書きなどの学びのツールに変えるーアルテックを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援ー
- ②Windowsパソコンのアクセシビリティと応用ーアルテックを用いた障害のある人の生活支援ー
- ③スマホやタブレットのアクセシビリティー肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなすー

〈9月28日(木)〉

- ①障害者差別解消法とアルテックの意味ー合理的配慮の1つとしてのアルテック利用ー
- ②障害者雇用とアルテックー障害者雇用現場でのアルテック活用の実例ー
- ③身の回りにおけるテクノロジー(アルテック)が支援技術に変わるー高齢者や障害のある人の生活支援ー

〈9月29日(金)〉

- ①視覚障害のある人のスマホ・タブレット活用ーアルテックを用いた視覚障害のある人の生活支援ー
- ②スマホやタブレットを生活支援ツールに変えるーアルテックを用いた肢体不自由のある人の支援のポイントー
- ③アルテックを利用した重度肢体不自由や重複障害のある人の生活・コミュニケーション支援

特設会場C(東6ホール内)

【プログラム No.10】

障害児のための「子ども広場」

障害のある子どもの発育段階において、福祉機器の利用は成長と生活において大きな可能性を拓けるものです。

そこで、子ども向け福祉機器の開発・普及を目的に、子ども向けの福祉機器を総合展示します。

さらに、福祉機器の利用や療育についての相談コーナーや、保育士が常駐するひとやすみコーナーほか、昨年に続いている企画「現在も未来も大切です！子どもの住まい(肢体不自由・発達障害)相談コーナー」を開設します。

1. 福祉機器展示コーナー

終日展示。本紙6頁の時間割により展示製品についての「製品説明」を聞くことができます。
(運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)
※本紙8~9頁に本企画で展示する製品リストなどを掲載しています

2. 相談コーナー

本紙6頁の時間割により、「療育相談」と「福祉機器相談」の2名の担当が配置されます。
(運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

3. 現在も未来も大切です！子どもの住まい(肢体不自由・発達障害)相談コーナー

このコーナーでは、子どもの住宅改修事例をパネルで紹介し、リハビリテーションセンターの建築士等が相談に応じます。子どもの身体機能や行動特性、家族のライフスタイルの変化をよく考えて設計された住宅は、将来にわたって安全で快適な暮らしの実現につながります。

【肢体不自由・医療的ケア編】 段差解消機やいす式階段昇降機、リフトなど、住宅の中で使われる福祉機器は、高齢の方や身体障害のある大人が使うものだと思いませんか？このような福祉機器は子どもにとっても大変有効です。

【知的障害・発達障害編】 子どもの行動から来る問題の中には住宅を工夫することで大きく改善されることもありま。住宅の工夫が家庭内のルールやコミュニケーションを構築するきっかけになる場合もあります。まずは子どもの安全対策から取り組み、親のストレスの軽減や子どもの社会的な行動の促進へとつながられる住宅を考えましょう。

日程：9月27日(水)~29日(金)の13:30~16:00

※新作パンフレット「てんかんのある人の暮らしの工夫ハンドブック」を配布する予定です

4. ひとやすみコーナー

保育士が常駐しています。広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者のみなさんと子育てについてお話ししましょう。

(運営協力：東京都社協保育士会)

【プログラム No.11】

ふくしの相談コーナー

技師、作業療法士などの専門家が、福祉機器や自助具に関わる来場者の相談に無料で応じます。

(運営協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由者協会、大肢協ボランティアグループ自助具の部屋)

【プログラム No.12】

福祉機器開発最前線 (デモンストレーション 手話通訳)

企業・研究機関の研究開発、試作状況などの情報提供や紹介の場として、最新の機器や製品の展示およびデモンストレーションを行います。

今回は、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業や厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の採択製品を含む合計10点の展示およびデモンストレーションを予定しています。

※本紙10~14頁に本企画で展示する製品の情報やデモンストレーションのプログラムなどを掲載しています。

東2ホール内(2-15-06)

【プログラム No.13】

被災地応援コーナー

災害に見舞われ、復興に取り組みながら製造・生産活動に取り組むセルフ(障害者就労支援施設・事業所)の製品を販売します。

～H.C.R.2017 出展社プレゼンテーション～

本紙15~16頁に、出展社プレゼンテーションの時間割表を掲載しています。

注1) 題名の横に 手話通訳 のついたプログラムは、手話通訳を行います。

注2) H.C.R.セミナー、特別企画への参加自体に係る費用は無料です。